

おとさだ 乙貞

第229号 通巻40巻第2号
令和2（2020）年6月1日発行

守山市立埋蔵文化財センター
〒524-0212 守山市服部町2250番地

TEL&Fax 077（585）4397
Mail maizobunkazai@city.moriyama.lg.jp

今年になって全世界を席巻している新型コロナウイルス感染症、滋賀県では、4月17日に緊急事態宣言が発出されましたが、多様な防疫の取り組みが功を奏したのか、感染の拡大はひとまず終息に向かいつつある状況になっています。そのようなことから、4月18日からの休館は先月末で終え、現在、感染症拡大の第2波、第3波の襲来を念頭におきながら開館しています。今後、これまで休止していました講演会等の啓発事業、あるいは友の会活動もしっかりとした感染予防策を講じたうえで再スタートしていきたいと考えています。

それでは、現在実施している遺跡発掘調査の状況や今後の事業など、前号発行以降の動きをお伝えしていきます。

発掘調査だより

焰魔堂城遺跡第6次調査

5月11日より、焰魔堂町字西浦において、宅地造成に伴う発掘調査を開始しました。調査は水田約2,750㎡が宅地開発されることから実施しているものです。開発地の道路建設箇所のうち、試掘調査で遺構が確認された約350㎡が今回の発掘調査の対象地で、2調査区に分けて着手し、先日、第1調査区の調査を終了したところです。

この第1調査区の成果は右上の写真にも示していますが、耕作土直下の遺構検出面から土坑4基と溝1条、多数のピットが見つかりました。



第1調査区土坑1 検出風景写真



第1調査区全景写真

検出遺構からの、時期を知る手がかりとなる遺物の出土は多くはありませんが、土坑には弥生土器が出土する土坑、土師器、須恵器が出土する土坑があり、弥生時代中期末と古墳時代後期の遺構があることがわかりました。

左下の写真は検出した土坑の掘削風景です。約1×1.3mの楕円形で、深さは60cmを測ります。堆積土層には、厚さ数センチの炭化物層の堆積が2層みられ、それぞれの上層から壺や甕など、中期末の弥生土器が出土しています。

現在は第2調査区を調査中で、今月中旬ごろに終了する予定です。次号で、今回報告した第1調査区を含めて、焰魔堂城遺跡第6次調査の成果を掲載したいと考えています。
(堀田)

令和2年度の発掘調査計画

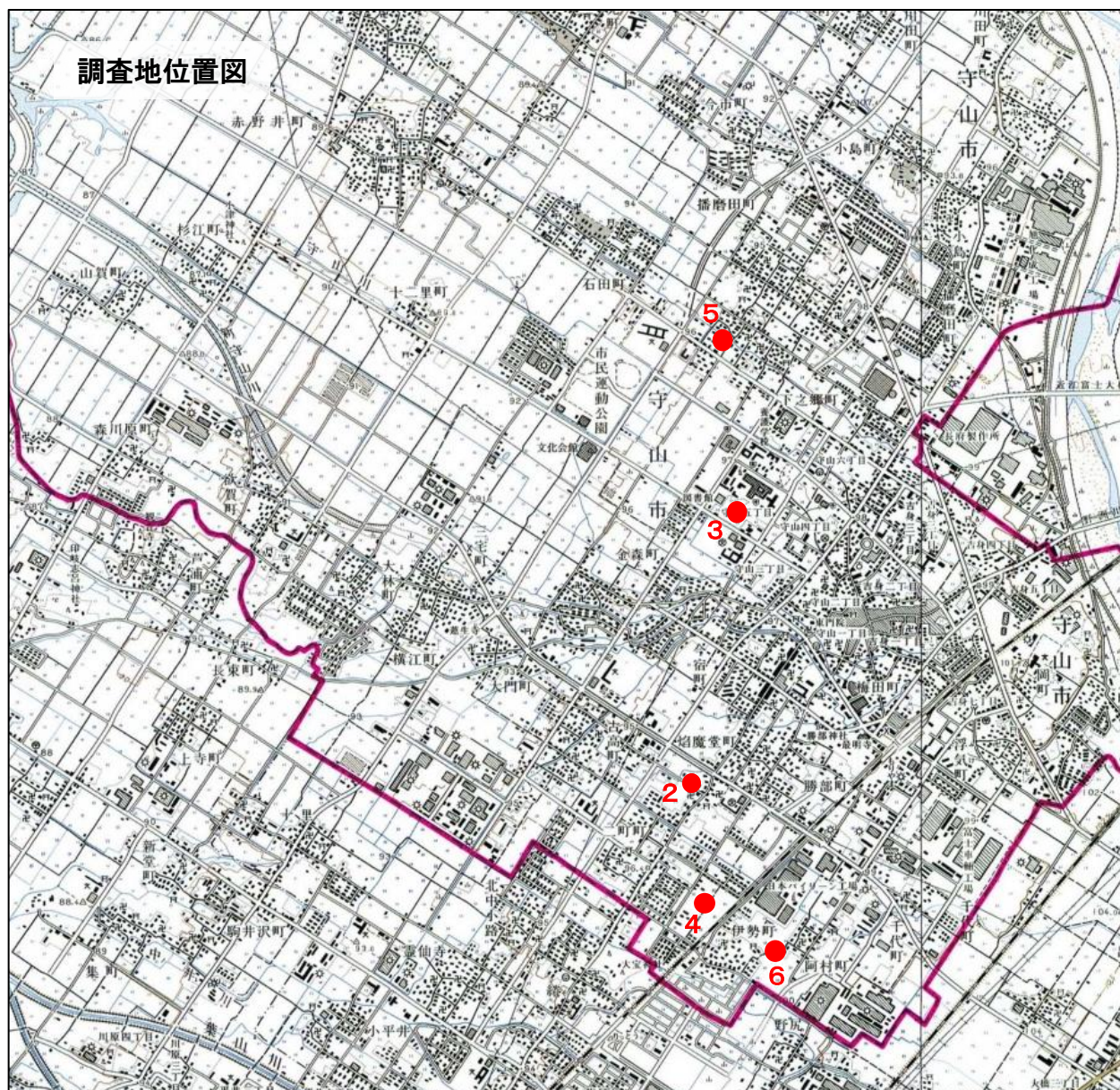
令和2年度は、5月末現在の計画として、6件の発掘調査を実施する予定です。

なお、年度途中の開発地に遺構が包蔵されているかどうかを調べる試掘調査によって、遺構が確認され、開発工事によってその保存が困難な場合には、事前の発掘調査が必要となるため、調査件数が増加することが予想されます。

令和2年度発掘調査 実施計画表

(調査面積は概数・㎡)

	遺跡名(調査回数)	調査所在地	調査面積	調査予定期間	調査原因	備考
1	市内遺跡	市内各所		R2.4.1 ～R3.3.31	個人住宅	5月末現在、市内遺跡調査として4件実施
2	焰魔堂城遺跡(6)	焰魔堂町	約 350 ㎡	R2.5.11～	宅地造成	現在発掘調査中
3	吉身西遺跡(129)	守山5丁目	約 540 ㎡	R2.6～	宅地造成	
4	高関遺跡(9)	伊勢町	約 400 ㎡	年度後半に実施	宅地造成	
5	下之郷遺跡(118)	下之郷2丁目	約 460 ㎡	年度後半に実施	宅地造成	
6	伊勢遺跡(130)	伊勢町	約 500 ㎡	年度後半の実施	史跡確認調査	



「発掘調査写真が語る守山、

半世紀の移り変わり」準備中です！

現在、発掘調査資料の整理に併せて、標記のパネル展示開催の準備を行っています。

発掘調査はそのほとんどが建物や道路などの工事に先立って実施されます。そのため、発掘調査の前後では景観が変わってきます。そこで、工事前の風景や周辺の様子が映り込んだ発掘調査の記録写真を展示し、昭和、平成の時代に移りゆく守山の景観を概観するという企画です。

その中から今回、梅田町のグリーンロード周辺の移り変わりを紹介いたします。昭和48年(1973)、JR守山駅駅舎は橋上駅に変わりましたが、駅とレインボーロード（琵琶湖大橋取付け道路）を結ぶ道路、現在の駅前グリーンロードは道幅が狭かったため拡張工事が計画され、それに先立って、守山市で最初の行政発掘調査となる吉身北遺跡の調査が行われました。右上がその時の調査写真です。調査地は拡張箇所、その左側が元々の道路です。その下の現在の風景とは全く違うことがわかります。

下の写真は、昭和56年に、拡張された道路沿い



の水田を駐車場にする工事に前に実施した発掘調査の調査前風景です。拡張された道路とJR線路の間は田畑が占めていることがわかります。

下の写真は、平成16年(2004)に、その田畑一帯が店舗開発されるために行った発掘調査写真(左)と現在の風景(右)で、ともに三上山が背景に写っています。

その後、わずかに残っていた畑地もなくなり、現在は駅前市街地の景観を醸し出しています。



令和2年度歴史入門講座

「歴史の中の文化財～原始から戦国まで

そして未来の人々へつなぐ～」開講します！

新型コロナウイルス感染拡大により開催が危ぶまれていました令和2年度歴史入門講座は、感染防止を図ったうえで下記のとりの日程で開講いたします。

なお、5月末現在、第5講を除いて若干の空きがありますので、受講を希望される講座がありましたらお問い合わせください。

◆開催日程

- 第1講 6月20日(土)「琵琶湖と縄文人～守山周辺の湖岸・湖底遺跡からわかること～」
講師 なかむらけんじ 中村健二 さん (公財)滋賀県文化財保護協会
- 第2講 7月18日(土)「近江に伝わる光秀伝説～多賀出生説・藤田伝五～」
講師 いのうえ まさる 井上 優 さん (滋賀県文化スポーツ部文化財保護課)
- 第3講 8月15日(土)「湖南の仏教美術 ～神と仏が織りなす美～」
講師 わたなべゆうすけ 渡邊勇祐さん (守山市教育委員会)
- 第4講 9月19日(土)「地域に伝わる祈り～くらしのなかのまつり～」
講師 はせがわよしかず 長谷川嘉和 さん (元滋賀県文化財保護審議会委員)
- 第5講 10月17日(土)「近江の古代寺院と野洲郡」
講師 おがさわらよしひこ 小笠原好彦 さん (滋賀大学名誉教授)
- 第6講 12月19日(土)「文化財を未来につなぐ～熊本城の被災現場より～」
講師 いわはしたかひろ 岩橋隆浩 さん (滋賀県文化スポーツ部文化財保護課)

◆開催時間 各講とも午前10時から12時

◆開催場所 市立埋蔵文化財センター2階会議室

◆受講料 1,200円 (全6講・1講のみ受講の場合は200円/講)

◆申込み先 守山市立埋蔵文化財センター 電話・FAX 077-585-4397

これまでの乙貞や新着情報は、『歴史のまち守山』やFace Book からもご覧いただけます！



←歴史のまち守山はコチラから

<http://moriyama-bunkazai.org>

守山市立埋蔵文化財センターFacebook ページはコチラから▶

<https://www.facebook.com/MaibunMoriyama/?ref=bookmarks>



【後記】紙面の冒頭を起とするなら、この後記は結、そういうわけで今回も新型コロナウイルス感染症を取り上げます。感染の拡大が危惧されるようになった当初、日本の防疫政策は手ぬるいと声高に叫ばれていました。いずれ日本も辿るであろうと思われていた欧米諸国が被ったような惨状には、現在のところ至っていませんし、今後もそうならないことを祈るばかりです。

しかし、なぜ日本は持ちこたえているのか、その理由については、東アジアという地域性やアジア人という人種に起因する、あるいは日本人がマスク着用慣れに慣れているといったことなどが指摘されていますが、日本文化に根差した靴を脱ぐ住環境やお辞儀というソーシャルディスタンスを確保しうる挨拶も感染拡大の抑止につながっているのではないかとともに取り沙汰されています。

それぞれの国や地域には固有の文化がありますが、殊、防疫に関して、女神が微笑みかけたひとつが日本文化ではないでしょうか。古代より今日まで、日本も幾多の感染症禍に見舞われていますが、風土に根差したこの文化のおかげでその被害が低減されているのかもしれない。理屈抜きに守るべきは伝統や文化ではないでしょうか。

(馬耳東風)